

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)研究

法人名	国立大学法人神戸大学	学部・研究科等名	経営学研究科現代経営学専攻
-----	------------	----------	---------------

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅲ 教育方法

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名: 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

○顕著な変化のあった観点名: 主体的な学習を促す取組

本研究科では、①アドバイザーボード(企業経営者等から構成)、②MBA フェロー(修了者から20~30人程度の先進的実務家を選抜)、③学生意見交換会、④MBA café(同窓会)、⑤受験を考えている社会人を対象とした説明会や公開講義など、多様なステークホルダーの意見を聴取する仕組みを整えている。それらの意見も参考にしつつ、「MBA タスクフォース委員会 2008」を設置し、カリキュラムや実施体制等の総括的な見直しを行い、平成20年度から実施した。そのうち大きな改革として以下の2点について説明する。

○「プロジェクト方式」の高度化・精緻化

本研究科では、「研究に基礎を置く教育」(Research-based Education)というコンセプトのもと、20年以上の実績を持つ「プロジェクト方式」という教育プログラムを実践している。これは、各人が仕事の中で直面している問題を持ち寄り、よく似た問題に直面している人々と共同して、深く調査・分析し、解決策を探るというものである。

この「プロジェクト方式」について、平成20年度に一層の高度化・精緻化を図るための改革を行った。従来のプロジェクト実習はほぼ同様の内容のものとして「ケースプロジェクト研究」(共通テーマをフィールド調査するために、数人で編成されたグループを組織し、グループごとに研究対象の企業あるいは機関を選び、インタビュー調査を行う)に引き継がれたが、決定的に異なるのは「テーマプロジェクト研究」である。平成19年度までのプロジェクト研究は、現代経営学演習の指導教員が各ゼミを単位として指導を行っていた。その部分を切り出し、同じ学年の学生が一人の教員の指導の下で調査を進め、発表する形態へと発展させたのが、「テーマプロジェクト研究」(取り組む研究テーマとチーム編成の決定が学生の手任せられ、そして1社ではなく3社以上の事例を調査して最終結果報告を行う)である。そうすることでゼミを超えて異業種の学生同士が深く広く学ぶというプロジェクト方式の長所を引き出すことを意図したのである。また、「現代経営学演習」の開始時期を2年前期としていたものをテーマプロジェクト研究が開講される1年次の8月下旬とすることで、ゼミでの論文指導を半年から1年に延ばすという変更も行われた。

○土曜日の履修だけによる1年半修了の実現と提供科目の多様化

本研究科では、平成元年のMBAプログラムの創設当初から修業年限について試行錯誤し、現在では1年半という期間が最もステークホルダーのニーズを満たし、かつ、学習効果が高いという認識を得ている。平成20年度から土曜日の科目を4コマから5コマとし、開講科目数を増やすことにより、修了要件が32単位から34単位に増えたにもかかわらず、土曜日の科目履修だけで1年半で修了することが可能となった。また、平日についても金曜日夜間の授業を1コマから2コマとし、主にこの枠を活用して、焦点が絞込まれた特定分野、あるいは実務的に重要性が高いと思われるカレントテーマについて理解を深めるための科目を提供することを可能にした。これによって実現された科目の例としては「グローバル戦略」、「品質管理」、「環境経営」、「イノベーションマネジメント」、「コーチング」、「アントレプレナーファイナンス」、「医療マネジメント」、「公益事業経営」などが挙げられる。このことでカリキュラムの多様性を高めることを意図している。

以上のほか、さらに、平成21年度には、慶應義塾大学大学院経営管理研究科及び京都大学大学院経営管理教育部と経営人材育成に関する基本合意を取り交わし、教材・カリキュラム開発、授業科目の相互履修、ファカルティ・ディベロップメント等について検討を行うなど、わが国のビジネススクールをリードする大学院として、更なる改革を進めている。